

ダンピング症候群

ダンピング症候群とは？

胃切除または胃摘出術後に胃の働きが低下もしくは消失して起こる様々な障害を「胃切除後症候群」といい、代表的なものに「ダンピング症候群」があり、その発症率は5～30%といわれています。これは胃容積や胃液分泌の低下により摂取した食物が小腸内へ急速にdump（ダンプ）- 落ち込むために発症する症候群で、食後30～60分ほどで起こる早期症状と食後1時間半～3時間ほどで起こる後期（晩期）症状があります。手術後、ほぼ通常の摂食を始めた頃に発症し、徐々に軽快するのが一般的ですが、まれに手術から数年経った後に発症する場合があります。

早期症状と後期症状

早期では腹痛、悪心、嘔吐、下痢などの腹部症状、頻脈、発汗、顔面紅潮または蒼白、めまい、倦怠感、脱力感、熱感などの自律神経系や血管運動の失調症状がみられます。これらの症状は、高浸透圧性の食物が急速に腸へ流入することによって起こる腸壁の緊張や、細胞外液の腸内への移行が原因となり、腸蠕動運動亢進、循環血液量の低下、消化管ホルモンの過剰分泌などが生じた結果と考えられています。また、胃を切除したことや病気に対する精神的なショックなども影響を及ぼしていると思われる。

後期（晩期）は、腸管からの急激な糖質の吸収による一時的な高血糖状態に反応し、膵臓か

らインスリンが過剰に分泌されることによって起こる反応性低血糖です。症状は全身脱力感、疲労、動悸、発汗、めまい、手指振戦、失神などで、急速な食後過血糖を防ぐために、間食をしたり、アメなどをなめることがよいとされます。

治療法

多くは食事療法で消失するといわれています。低糖質、高タンパク、適度な脂肪で水分をできるだけ控えた食事を1日5～6回に分けてゆっくりよく噛んで、腹6～7分目ぐらいに抑えて摂り、食後は横になるなど安静にすることが最も重要です。それでも症状が改善しない場合は、対症療法として各種薬剤の投与が行われ、まれに外科的手術の適応となる場合があります。

今日の漢方処方

六君子湯《万病回春》

胃腸虚弱を改善する四君子湯と、胃内停水を治す二陳湯の合方です。人参を主薬として構成され、食欲不振 易疲労 貧血や下痢傾向があり、手足の冷えやすいものの胃炎 胃アトニー 胃下垂 消化不良 胃痛 悪心 嘔吐などに応用します。全体として、脾虚に痰飲を伴う証に適した処方となっています。

六君子湯の構成生薬

ニンジン	ジン	チン	ビ
人参		陳	皮
ビャク	ジュツ	ショウ	キョウ
白	朮	生	姜
フク	リョウ	タイ	ソウ
茯苓		大	棗
ハン	ゲ	カン	ソウ
半夏		甘	草

人 参

人参は《神農本草経》の上品に収載され、古来より滋養強壯の高貴薬として珍重されてきました。中国東北部から朝鮮半島にかけての原産で、別名を高麗人参 朝鮮人参と称します。この名称を聞けば、多くの人が「ああ、あの体に良いという薬用の...。」と想像でき



るのではないのでしょうか。薬用酒として用いられるほか、多くの漢方処方にも配合される、まさに生薬の長です。

“人参”とは根がしばしば人型に分岐していることから名付けられ、日本では江戸時代に徳川吉宗がその種子を各藩に下賜して栽培させたことから、“御種（オタネ）”人参と呼ばれるようになりました。

野生品は極めてまれであり非常に高価なため、今日では主に栽培品が使用されています。しかし、収穫までに4～6年を要し、かつ連作を嫌うことから、栽培品も安くはありません。現在、朝鮮半島のほか日本でも多く栽培され、

長野県（信州人参）島根県（雲州人参）福島県（会津人参）が三大産地となっています。

人参は、産地による名称の違いに加え、根の使用部位や調整法によっても、それぞれ商品名を付けて区別されています（生干人参、御種人参 白参 尾人参 紅参 野参）。さらに、

同属他品種や代用品など、関連のある生薬（竹節人参、田七人参 五加参 党参 丹参 西洋人参（=広東人参））が多く存在するため、その区別が重要となります。

代表的な補気薬であり大補元氣 安神益智 健脾益氣、生津の働きがあります。消化器系だけでなく、中枢神経系や内分泌・代謝系 循環器系 生体防御系などに作用し、抗潰瘍 抗疲労 抗アレルギー 抗腫瘍 脂質・糖質代謝改善 血流改善 精神安定 健胃整腸など多くの薬理作用を示します。主成分の人参サポニン ginsenoside 類をはじめとする各種成分の研究は、今後も注目されることでしょう。